



あ わ た ま さ こ
栗田昌子 議員

Masako Awata

Q&A

一般質問

Q. 豊山町の国際交流は A. グラント郡と協議する

3月定例会

質疑・討論

トピックス

一般質問

グローバル化と多文化共生社会が進展する中で、豊山町の国際交流は、どうしたらよいか、過去の豊山中学校生徒のオーストラリア派遣や志水小学校と米国「コロラド州の小学校との交流を顧みて、4点について質問する。

Q 国際交流の概念は。

A 総務部長
国際交流とは、国境を越えて互いに行き来することで、多様な価値観、個性、考え方に触れる大変貴重な機会である。本町在住の外国人も年々増加し、町内の日常生活でも、国際交流の機会は増えている。

Q ワシントン州の地元の方々が来町されたという。このようにつながりを大事にしてほしい。

A 総務部長
昨年4月と12月にアメリカワシントン州グラント郡の代表団が来町。グラント郡にあるモーゼスレイク国際空港では、現在、MRJの試験機4機の試験飛行が行われている。

グラント郡内にはMRJ開発に関わる日本人スタッフ約400人が住み、約50名のご子息が地元小学校に通学しているとのこと。12月の来町時には、日本人学生の担任教師も代表団の一員として来日され、豊山中学校をご視察いただいた。

グラント郡は、MRJの日本の製造拠点である豊山町と、特に学生との交流を望んでいる。MRJの日本拠点地域の交流は「空港を活かしたまちづくり」に役立つ。具体的交流のあり方をグラント郡と協議する考えである。

Q 国際交流は、送り出しだけでなく、受け入れることにも意義がある。受け入れには、ぜひ18年間で180人のオーストラリア派遣参加者の掘り起こしをしたほうが良いと思う。

A 総務部長
平成3年度から20年度まで実施した本町の人材育成事業で、豊山中学校在学中にオーストラリアに派遣された180名は、まさに若い時期に国際交流を経験した貴重な人材である。

今後、本町の国際交流、多文化共生にお力をお貸しいただきたい。

Q 豊山国際交流の会という設立11年目の団体がある。今後、何か町に協力できることがあれば、と思う。町のご見解は。

A 総務部長
豊山国際交流の会

で活躍の方々をはじめ、国際交流や多文化共生の分野で势力的に活動している方々のスキル、知識、経験は、地域の国際化に欠かせない財産である。

豊山町の国際交流や多文化共生の中核として、ご尽力、ご協力いただきたい。



▲豊山国際交流の会の皆さん